



学校だより～三カ一心～

平岩小中学校
学校通信No.4
H30.5.31

■ 生きるということ

皆さんは、アンジェラ・アキさんの「手紙～十五の君へ」という歌をご存知でしょうか。この曲は、第75回NHK全国音楽コンクールの中学校の部の課題曲でした。

先日、私が参加した人権に関する研修は、この歌を使った研修でした。一番は、15歳の自分が大人になった自分へ打ち明けた悩みで、二番は、大人になった自分から15歳の自分へのメッセージになっています。特に、二番の歌詞は、共感できる部分がたくさんあります。

「自分とは何でどこへ向かうべきか、問い合わせれば見えてくる。」

「荒れた青春の海は厳しいけれど、明日の岸辺へと夢の舟よ進め。」

「消えてしまいそうなときは、自分の声を信じ歩けばいいの。」

「人生のすべてに意味があるから恐れずにつなぎの夢を育てて。Keep on believing」

「いつの時代も悲しみは避けては通れないけれど、笑顔を見せて今を生きていこう。」

- 皆さんは、この歌詞のどこに共感しますか。それはなぜですか。
- あなたは、十五の自分にどんなメッセージを送りますか。
- 今の十五の子どもたちに伝えたいメッセージは何ですか。

研修では、上のような質問について、それぞの考え方を出し合って、みんなで協議しました。大人が子どもにできることは何か、子どもに伝えなければならないことは何か、子どもの命をどう守るなどについて考えさせられました。

ちなみに、命に関することと言えば、忘れられないCMがあります。明治安田生命の「たったひとつのたからもの」というCMです。2001年に放映されました。このCMを見て、また私の教育観は少し変わりました。

明治安田生命のCMギャラリーで見られます。よかったです見てみてください。

■ 平岩レンジャー、鮫島哲也賞受賞

5月29日に、日向東ロータリークラブから、スポーツ・文化及び教育活動においてすぐれた功績を上げた個人、団体に贈られる「鮫島哲也賞」をいただきました。

本校では、昨年度、平岩レンジャーを立ち上げ、地域のボランティア団体と一緒に、平岩遊歩道の清掃活動に取り組んできました。そのことを評価いただいたそうです。

平岩まちづくり協議会に次いで、二つ目の表彰です。

こんなに評価していただくとは思っていませんでしたが、日々の行動というものは、だれかがどこかで見てくださっているんだなあと思いました。

自分が誰かの役に立っているという自己有用感は、社会の中で生きていくためには、絶対に必要なことです。ボランティア活動は、誰かにやらされるのではなく、主体的に取り組む活動です。だからこそ、自己有用感はより高まります。

このように社会から評価されれば、子どもたちも、社会に役立っていることが実感できると思います。

今回は、私と平岩レンジャー創設者の宮野教諭が出席しましたが、改めて6月7日の全校朝会で、日向東ロータリークラブの秋田会長から子どもたちに直接授与していただく予定です。

なお、本年度は、「平岩レンジャー」の参加対象者に中学部生だけでなく5・6年生も加えます。また、読書活動に関するボランティアチームも立ち上げる予定です。

■ 第1回学校運営協議会

5月25日に第1回の学校運営協議会を開催しました。本年度の委員は、次の方々（敬称略）です。よろしくお願いします。

会長	弓削哲郎	副会長	甲斐靖朗
委員	児玉寛仁	松葉卓代	三谷道代
	松葉進一	小川一三	相馬 正
	甲斐純子	黒木一義	高橋和範
	谷山伸介	佐保恭博	水原 隆

|